

瀬戸内国際芸術祭2025

Setouchi Triennale 2025

企画発表会



日時 | 2024年10月24日[木] 14:00 - 15:00

場所 | 東京ミッドタウン八重洲 カンファレンス

主催 | 瀬戸内国際芸術祭実行委員会

プログラム

1 部

14:00

1. オープニングアクト

2. ご挨拶

瀬戸内国際芸術祭実行委員会 会長 池田 豊人
瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー 福武 総一郎

3. パートナー企業紹介

4. 瀬戸内国際芸術祭2025企画概要発表

瀬戸内国際芸術祭総合ディレクター 北川 フラム

5. メインビジュアルについて

株式会社日本デザインセンター 原 研哉

6. 瀬戸芸美術館連携について

瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー 福武 総一郎

7. 事務局インフォメーション

瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局長 吉川 健司

8. フォトセッション

2 部

15:00

【5階ラウンジにて】

取材

【1部同会場にて】

旅行エージェント向け説明会

5階ラウンジに瀬戸内国際芸術祭に関する展示と、芸術祭に関連する試食スペースをお飲み物と共に設けております。
ご歓談いただきながらご覧ください。

16:00

閉会

目次

瀬戸内国際芸術祭とは	1
ディレクターメッセージ	2
これまでのあゆみ	3
2025開催概要	4
2025重点プロジェクト	5 - 11
参加予定 新規作品・新展開作家・プロジェクト一覧	12 - 13
全17エリアの会場	14 - 18
チケット情報	19
会期中の交通・アクセス・混雑対策	20
ツアー	21
公式デザイン	22 - 23
インフォメーションツール	24 - 25
芸術祭サポーター	26
連携・交流・人材育成	27
協賛・寄付	28 - 29
お問い合わせ先	裏表紙

瀬戸内国際芸術祭とは

海の 復権

「島のおじいさんおばあさんの笑顔を見たい。」－そのためには、人が訪れる“観光”が島の人々の“感幸”でなければならず、この芸術祭が島の将来の展望につながって欲しい。このことが、当初から掲げてきた目的＝『海の復権』です。

有史以来、日本列島のコブクロであった瀬戸内海。この海を舞台に瀬波津からの近畿中央文化ができたこと、源平、室町、戦国時代へとつながる資源の争奪の場であったこと、北前船の母港として列島全体を活性化したこと、朝鮮通信使による大切な大陸文化の継続した蓄積の通路であったことは、その豊かさを物語るものでした。しかしこの静かで豊かな交流の海は近代以降、政治的には隔離され、分断され、工業開発や海砂利採取等による海のやせ細りなど地球環境上の衰退をも余儀なくされました。そして世界のグローバル化・効率化・均質化の流れが島の固有性を少しずつなくしていく中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力を低下させてきたのです。

私たちは、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々と地域に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内国際芸術祭を開催しています。



ディレクターメッセージ

2010年に第1回が始まった瀬戸内国際芸術祭は2025年に第6回を迎えます。人が生きてきた場所には土地・気象・動植物の生態と親しみ工夫して生きてきた祖先の知恵があり、そこにアーティストが関わってその特徴を作品化する。その相談・協働を通じた芸術祭はユニークな地域づくりの実践として、当初の夏期間の8の島や港だけでなく、現在17カ所での3会期に拡がり、国内外の多くの旅行者に楽しさと気持ちの良さを感じてもらえるようになり、地域づくり、インバウンド、観光のモデルとなりました。

テーマは最初から変わらず「海の復権」であり、キャッチフレーズは「爺さま婆さまの笑顔」、「行って良し、来られて良し」の芸術祭で、準備から本番を通しての協働が美術を広い世界に開いてきました。

来年からはより地域計画に寄り添おうと準備されています。企業の参加も地域とより深く関わるなど、より実践的になりつつあります。芸術祭を支え伝えてくれているサポーターは相変わらずの瀬戸芸の宝です。

アリーナが出来る高松港もより楽しく遊び交流できる設えになり、アジアとのつながりはベトナム交流広場、直島の新美術館、小豆島のアジアギャラリーで展開されます。

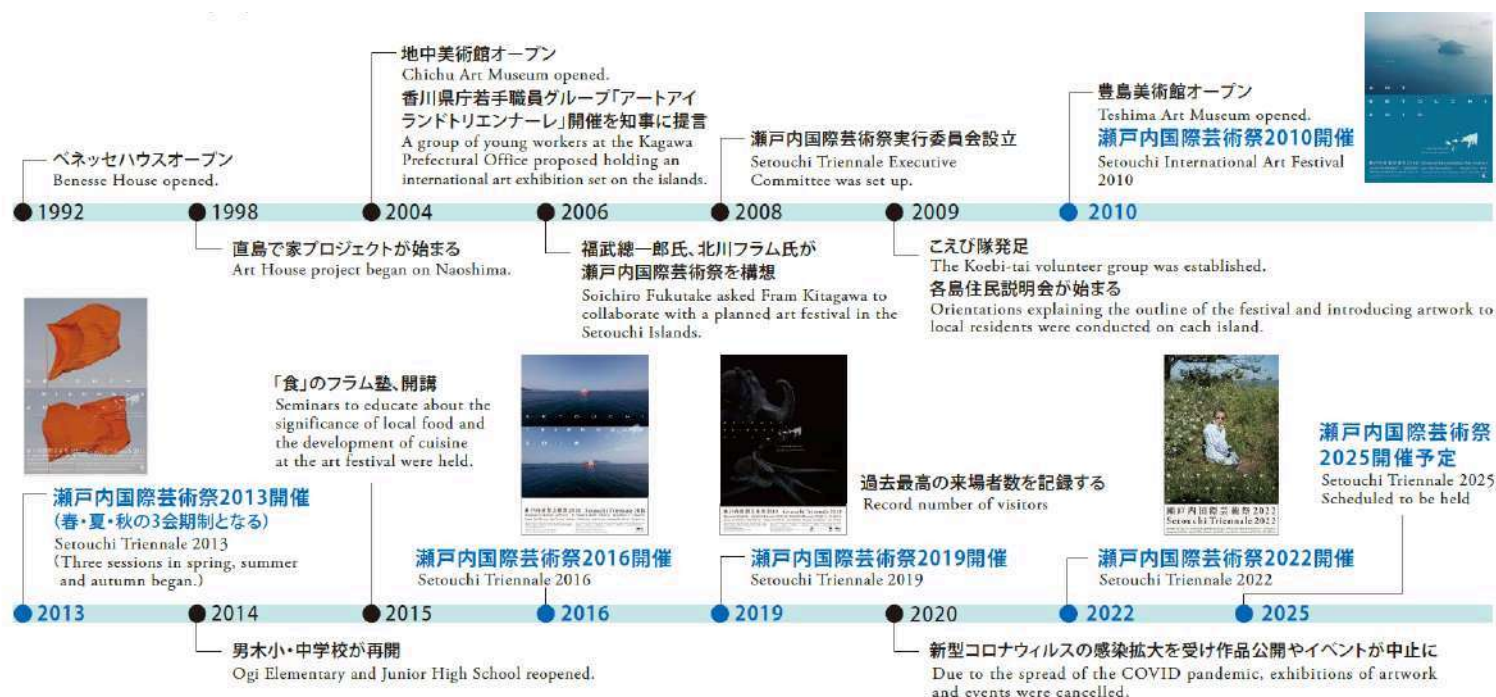
瀬戸内をゆっくり楽しんで巡り、私たちの祖先ホモサピエンスが極東の島国に北から東から南からやってきて、終着の地としてその文化を開花させた永い時間を省りみれたらと思います。



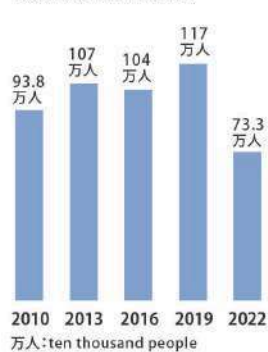
瀬戸内国際芸術祭 総合ディレクター

北川 フラム

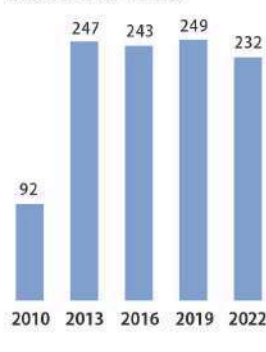
これまでのあゆみ



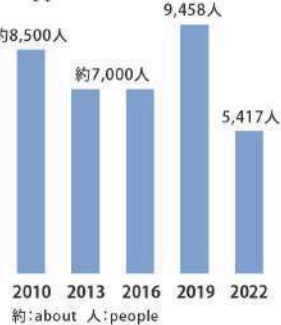
来場者数
Number of visitors



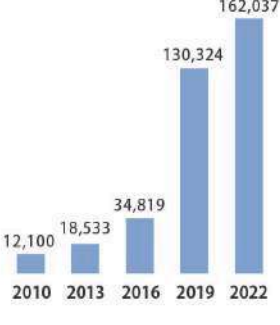
作品数
Number of works



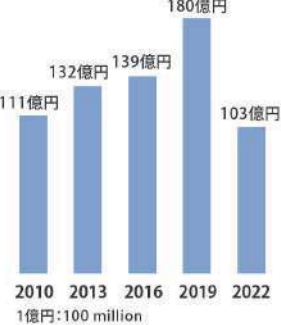
参加サポーター数
Number of participating supporters



SNS総フォロワー数
Total number of followers on social media



経済波及効果
Economic Ripple Effect

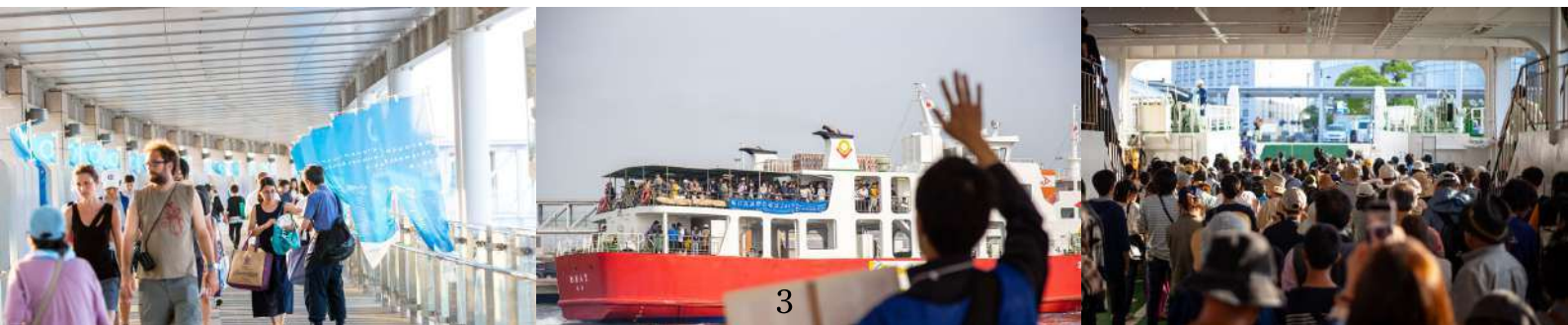


※参加サポーター数:すべて延べ数 Number of participating supporters: All total numbers

※SNSフォロワー数:X(2010年～)、Facebook(2013年～)、Instagram(2016年～)の合計 Total number of followers on X(2010～), Facebook(2013～) and Instagram(2016～)

【主な受賞歴】

- ・第1回ジャパンツーリズムアワード大賞(2015)
- ・米紙ニューヨークタイムズ電子版で「2019年に行くべき旅行先」として「Setouchi Island」が世界7位に選出
- ・英紙National Geographic Travellerで「2019年行くべき旅行先」として「SETOUCHI」が世界1位に選出
- ・日本建築学会賞作品賞「島キッチン／安部良」(2021) 他



2025開催概要

名 称 瀬戸内国際芸術祭 2025 (せとうちこくさいげいじゅつさい にせんにじゅうご)
Setouchi Triennale 2025

会 期 春：2025年4月18日|金|－5月25日|日|
夏：2025年8月1日|金|－8月31日|日|
秋：2025年10月3日|金|－11月9日|日| 計107日間

会 場 瀬戸内の島々と沿岸部（全17エリア）
【全会期】直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、
高松港周辺、宇野港周辺
【春会期】瀬戸大橋エリア
【夏会期】志度・津田エリア、引田エリア
【秋会期】本島、高見島、栗島、伊吹島、宇多津エリア

各会場休日予定（一部施設を除く）

- 直島：毎週月曜日（祝日の場合は火曜日）
- 豊島・犬島：毎週火曜日（祝日の場合は翌日or翌々日）
- 女木島・男木島・小豆島・大島：5/14（水）、5/21（水）、
8/20（水）、10/22（水）、10/29（水）
- 本島・高見島・栗島・伊吹島：10/23（木）、10/30（木）



2025 重点プロジェクト

●アジアの文化芸術の中核へ

瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」を掲げ、海を介してつながるアジアの国々との交流を深めてきました。日本列島は、2万年ほど前より北から大陸の半島から、そして主にインドネシアからフィリピン、台湾、沖縄というルートでやってきたホモサピエンスが混在してきた島国です。効率第一主義となり分断されたこの世界で、豊かで穏やかな美しい内海・瀬戸内に、文化や生活が似通うアジアのアーティストが集い、作品を発表し、美術が歴史を作ることに参加しつつあることを世界へ伝えていきます。2025年の芸術祭ではアジア各国とこれまで以上に繋がりを広げ、そして関係性を深め、瀬戸内国際芸術祭がアジアの文化芸術の中核を担っていくことを目指します。

アジア各国からの参加（2024年10月24日現在）

参加予定の国と地域

ベトナム、タイ、インドネシア、カンボジア、シンガポール、フィリピン、ラオス、インド、中国、韓国、台湾

主なアーティスト紹介

ジャッグガイ・シリブート（タイ） Jakkai Siributr (Thailand)

1969年、バンコク出身／在住。

テキスタイルと刺繍による作品で主に知られている。アメリカに10年近く在住し、インディアナ大学ブルミントン校およびフィラデルフィア大学にて学んだほか、タマサート大学 美術応用芸術学部にて講師を担った。

彼の作品は、記録に書かれなかったタイの非正式な歴史、また個人の物語と地域的な歴史の交差を意識している。また、マイノリティに対する国粋主義的な差別に対する闘争と、彼が選んだ形式と素材の視覚的官能性という二つの主題の間の繊細な緊張関係を創造している。

彼のインスタレーション作品は観客参加型の要素が増えてきており、最近では、刺繍のワークショップを通じてタイとミャンマーの国境やアメリカにいる難民を含めた様々なコミュニティとの協働を始めている。



courtesy 100 Tonson Foundation



courtesy CHAT
(Centre for Heritage, Arts and Textiles)

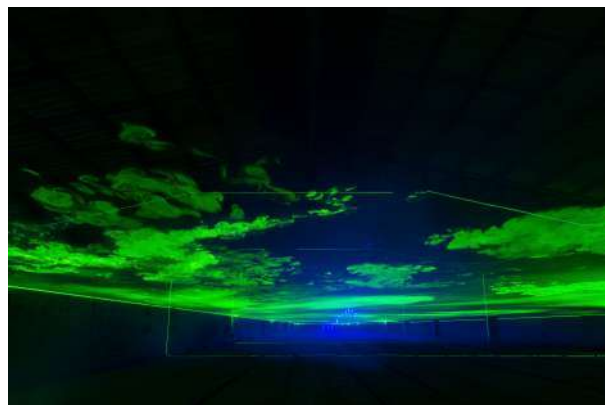
プ・ジヒョン (韓国) Boo Jihyun (South Korea)

1979年、韓国 済州島出身／在住。

自身の海に関する自伝的な記憶を、光と空間を探索する没入型インスタレーションに変換する。彼女の作品は、漁業用のランプや海辺で拾い集めた物を再解釈し、暗闇や音など海の無形の要素を具現化する。2007年に認知度が高まって以来、魚を引き寄せるために使用されていた廃棄された漁業用ランプを独特なアート作品に昇華させ、観客を魅了している。彼女のインスタレーションは、レディメイドの概念と芸術的革新を融合させ、個人的な歴史と海の感情的な美学を結びつける感動的な体験を創造している。



Profile_Courtesy of the artist



Ultimate Space LED, junk fishing lamps, fog machine, laser, dimensions variable, 2021 Courtesy of the artist

雲門舞集 (台湾) Cloud Gate (Taiwan)

1973年に振付家のリン・ファイミンが中国語圏で最初のコンテンポラリー・ダンス・カンパニーとして設立。雲門とは中国で最も古い舞踊の名前の名前である。2022年にはチェン・ツォンロンがリンの後任として芸術監督に就任。伝統的なルーツを持つ創造的な作品と、デジタル化・グローバル化した世界における革新的な視点を融合させている。

アーティスティックディレクター／振付家 チェン・ツォンロン [鄭宗龍]

台湾最古の地区、パンカ地区に生まれる。世界100ヶ国での公演を達成した「13 Tongues」(2016)、シガー・ロスにより編曲された音楽に合わせた「Lunar Halo」(2019)、新型コロナウイルスのパンデミック下で展開された「Sounding Light」(2020)、ダンサーの個人的な経験を反映させた「Send In A Cloud」(2022)、そして真鍋大度とともにテクノロジーの影響について探った「WAVES」(2023)など、ストリートでの生活や民間信仰の要素を取り入れた作品で知られている。大手出版社ラウトレッジの「現代振付家50人」(2020)にも特集された。



CHENG Tsung-lung_
photo by LEE Chia-yeh



Sounding Light
Performed by Cloud Gate Dance Theatre of Taiwan
Choreographer: CHENG Tsung-lung
Photo by LIU Chen-hsiang



Sounding Light
Performed by Cloud Gate Dance Theatre of Taiwan
Choreographer: CHENG Tsung-lung
Photo by LEE Chia-yeh

瀬戸内アジアフォーラム2025

瀬戸内アジアフォーラムは2016年に始動し、フォーラムの開催、芸術祭視察ツアー、書籍の発行などを通じてアジアを中心にアートや文化による地域づくりに関わる人々の交流を生みだしてきました。

2025年は、人類の移動の歴史、世界における日本列島や日本列島における瀬戸内、グローバル経済社会、世界情勢等について、また瀬戸内国際芸術祭を介して拓がる世界との連携や、アーティスト達の実践について、活発な意見を交わします。

テーマ：海でつながる世界

日程：2025年10月3日－5日（仮）

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会



ベトナムプロジェクト（仮称）

瀬戸内国際芸術祭では2013年にバングラデシュ、2016年にタイとの連携プロジェクトにより、アジアの国の民俗・芸能・職人の技術等、生活の営みの中の美術を紹介し、日本と諸外国、特にアジア諸地域との連携を深めてきました。

2025年はベトナムにフォーカスします。県立ミュージアムで行う現代美術作品を紹介する展覧会に加え、食、工芸、デザインなど生活の中に浸透している様々なジャンルの文化・芸術を通して、ベトナムの多様な魅力と人々の日常のエネルギーを伝えるマーケットを高松港周辺で開催します。

会期：夏会期

会場：高松港周辺、香川県立ミュージアム

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会



● 海外の国・機関とのネットワークの広がり

瀬戸内国際芸術祭はこれまでも、オーストラリアやオランダ、ドイツ等の欧米諸国やアジア各国から様々な国のアーティストを迎えてきました。今後はより積極的に各国との連携を推し進め、関係性を深めていきます。

2025年は新規にニュージーランドやスウェーデンと連携を図り、芸術祭での作品発表に加え、その後の継続的な関係性構築を目指して取り組みを始めるほか、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）と共に取り組む企画展も開催します。



主なアーティスト紹介

サラ・ハドソン（ニュージーランド）

Sarah Hudson (New Zealand, Ngāti Awa, Ngāi Tūhoe, Ngāti Pūkeko ※マオリ語表記)

ニュージーランド出身／在住。

ニュージーランド北部のンガティ・アワ族、ンガイ・トゥホエ族、ンガティ・プケコ族にルーツを持つ。2010年にウェリントンのマッシー大学にてファインアーツの修士課程を優秀者として修了。マオリの塗料製造技法の振興と保存に注力する団体、カウアエ・ラオ・リサーチ・コレクティブの創設メンバーである。

彼女の作品は、ペインティング、パフォーマンス、映像、彫刻を通してツィノ・ランガツィラタンガ（主権）、遊び、ヴェニウア（土地）、相互関係、人々の結びつきについて探求する。第60回ヴェネツィア・ビエンナーレで金獅子賞を受賞し、高く評価されている女性アーティスト集団、マタホ・コレクティブとともに幅広く展示活動をしている。



provided by McCAHON House



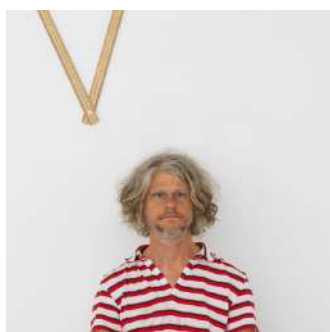
ヤコブ・ダルグレン（スウェーデン）

Jacob Dalhgren (Sweden)

1970年、ストックホルム出身。

ストックホルム王立美術院で美術修士号を取得。彼の作品は、純粋な形式的抽象における単一性と、複雑な社会的文化との対話に関心を持っている。彼の作品には、どこにでもある普通のもの、家庭用や工業製品として製造されたものが多用され、ハイ・モダニズムの抽象絵画および20世紀の美術理論が主張してきたすべてのイデオロギー的領域を代表している。

しかし、同時にこれらのオブジェは社会の集団的で人間的な側面を意味し、消費者がそれぞれ個人の選択に基づいて製品を使用し、消費する様子を表している。つまり、共同体やグループを象徴しており、民主的な存在として成立している。



Color Reading and Contexture



I, the World, Things, Life

レオニート・チシコフ&マリーナ・モスクヴィナ（ロシア）

Leonid Tiskov&Marina Moskvina (Russia)

レオニート・チシコフ

1953年、ニージニー・セルギ(旧ソ連)出身、モスクワ(ロシア)在住。

現代ロシア美術を代表するアーティスト。2003年以降、月のオブジェと共にルーマニア、ウクライナ、フランス、北極、アメリカなど世界数10カ国を旅して、月のオブジェをその土地の風景の中で撮影し、同じ月の光のもとに世界を結びつける《僕の月の旅》プロジェクトを展開している。

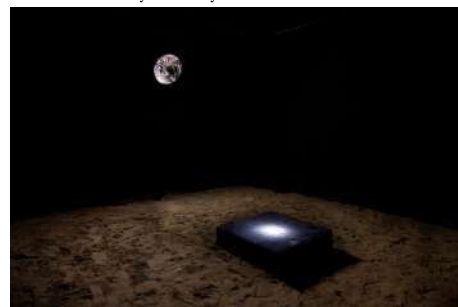
マリーナ・モスクヴィナ

1954年、モスクワ出身。

モスクワ大学ジャーナリスト学部卒業。代表作『ぼくの犬はジャズが好き』（小学館）や絵本『ワニになにながおこったか』（偕成社）などの数々の作品によって、児童文学作家として人気を博した。世界中を旅する冒険家でもある。北極、ネパールなどの旅行記や、日本の旅の印象をユーモアをまじえて描いた『枕草子』などの旅行記でも知られる。



Photo by Raul Skrylev



レオニート・チシコフ「月への道」 Photo Keizo Kioku

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）共催企画

国連の難民支援機関であるUNHCRとの共催により、ホンマタカシ（写真家）による写真展を開催します。世界ではいま1億2千万人以上の人々が故郷を追われ、各地で紛争や人道危機が後を絶ちません。「海の復権」をテーマに掲げ、瀬戸内海が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指す瀬戸内国際芸術祭において、日本と諸外国の文化芸術の中核となるよう海外との連携を推進するとともに、難民一人ひとりの物語や力に光を当て、日本社会における難民問題への関心や理解を深めるため、それぞれのポートレートや「大切なもの」などを記録した作品を展示します。

◎芸術祭に先立ち、2024年の「世界難民の日」（6月20日）に合わせて、ホンマタカシが日本国内で暮らす難民の背景を持つ人々を撮影。

※写真右、詳細は右記二次元コードからご確認ください。



ホンマタカシ（写真家）



© Takashi Homma

●企業の参画

瀬戸内国際芸術祭では、芸術祭の主旨に賛同して、一定額以上の協賛をいただいた企業・団体をパートナー企業と位置づけ、相互の協力関係を構築しています。2025年は現在パートナー企業は15社・団体となりました。パートナー企業をはじめとする企業・団体からの作品制作や運営面への強力なサポートのほか、芸術祭開催自治体とのエリアマネジメント、首都圏での広報宣伝協力など、様々な形の連携・取り組みが始まっています。

●四国の表玄関としての高松港へ

2010年から始まった瀬戸内国際芸術祭により、国内外からの来訪者は増加傾向にあります。高松港やJR高松駅、バスターミナルなどが集積しているサンポート高松周辺では、新たな駅施設の開設や、県立アリーナの新設工事などが進み、香川県はより一層のにぎわい創出のための取り組みを進めています。それを受けて瀬戸内国際芸術祭2025では、高松港プロジェクト（仮称）を掲げ、芸術祭のインフォメーション機能を港に持たせ、文化芸術面や、瀬戸内の食や産品、技術などの発信の場となり、四国を代表する国内外からの表玄関として、人々が集い交流しにぎわう高松港を目指します。



展開予定地の高松港

● 作品展開方針

第1回開催から15年の2025年は、作品展開を開催会場の自治体の地域計画に、できる限り繋げていきます。例えば、今回新しく参加するさぬき市、東かがわ市、宇多津町は、会場となるエリアでそれぞれの市町が力を入れているテーマに作品としても注目し、さぬき市では平賀源内や津田の松原、東かがわ市では手袋産業、宇多津町では古街と塩をアーティストが作品として取り組んでいく予定です。



参加予定 新規作品・新展開作家・プロジェクト一覧 1/2

※ラストネームのアルファベット順

	作家・プロジェクト名	作家・プロジェクト名 (En)	出身／活動拠点	出身／活動拠点 (En)	分類
1	プ・ジヒョン	Boo Jihyun	韓国	South Korea	
2	ヤコブ・ダルグレン	Jacob Dahlgren	スウェーデン	Sweden	
3	EAT&ART TARO	EAT&ART TARO	日本	Japan	
4	エミリー・ファイフ	Emilie Faif	フランス	France	
5	藤野裕美子	Yumiko Fujino	日本	Japan	
6	GREEN SPACE	GREEN SPACE	日本	Japan	
7	日比野克彦	Katsuhiko Hibino	日本	Japan	
8	サラ・ハドソン	Sarah Hudson	ニュージーランド	New Zealand	
9	五十嵐靖晃	Yasuaki Igarashi	日本	Japan	
10	ニキータ・カダン	Nikita Kadan	ウクライナ	Ukraine	
11	金氏徹平	Teppe Kaneuji	日本	Japan	
12	川島猛とドリームフレンズ	Takeshi Kawashima & Dream Friends	日本	Japan	
13	木戸龍介	Ryusuke Kido	日本／タイ	Japan / Thailand	
14	小枝繁昭	Shigeaki Koeda	日本	Japan	
15	ジョンペット・クスウィダナント	Jompet Kuswidananto	インドネシア	Indonesia	
16	ジェナ・リー	Jenna Lee	オーストラリア	Australia	
17	マフマドマフ	mafmadmaf	中国	China	
18	松井えり菜	Erina Matsui	日本	Japan	
19	ニール・メンドーサ	Neil Mendoza	イギリス／アメリカ	UK / USA	
20	エカテリーナ・ムロムツェワ	Ekaterina Muromtseva	ロシア／アメリカ	Russia / USA	
21	長澤伸穂	Nobuho Nagasawa	日本	Japan	
22	直島新美術館（建築：安藤忠雄）	Naoshima New Museum of Art [Architect: Tadao Ando]	-	-	
23	リーロイ・ニュー	Leeroy New	フィリピン	Philippines	
24	西澤利高	Toshitaka Nishizawa	日本	Japan	
25	小谷元彦	Motohiko Odani	日本	Japan	
26	岡淳	Makoto Oka	日本	Japan	
27	尾身大輔	Daisuke Omi	日本	Japan	
28	大西麻貴＋百田有希	onishimaki+hyakudayuki architects / o+h	日本	Japan	
29	ブンポール・ポータィザン	Bounpaul Phothyzan	ラオス	Laos	
30	ソピアップ・ピッチ	Sopheap Pich	カンボジア／アメリカ	Cambodia / USA	
31	ラックス・メディア・コレクティブ	Raqs Media Collective	インド	India	
32	塩田千春	Chiharu Shiota	日本／ドイツ	Japan / Germany	
33	ジャッガイ・シリブート	Jakkai Siributr	タイ	Thailand	
34	田中圭介	Keisuke Tanaka	日本	Japan	
35	田島征三	Seizo Tashima	日本	Japan	
36	レオニート・チシコフ & マリーナ・モスクヴィナ	Leonid Tiskov&Marina Moskvina	ロシア	Russia	
37	豊福亮	Ryo Toyofuku	日本	Japan	

参加予定 新規作品・新展開作家・プロジェクト一覧 2/2

	作家・プロジェクト名	作家・プロジェクト名 (En)	出身／活動拠点	出身／活動拠点 (En)	分類
38	梅田哲也	Tetsuya Umeda	日本	Japan	
39	ワン・ウェンチー[王文志]	Wang Wen-Chih	台湾	Taiwan	
40	山川冬樹	Fuyuki Yamakawa	日本	Japan	
41	山本基	Motoi Yamamoto	日本	Japan	
42	矢野恵利子	Eriko Yano	日本	Japan	
43	やさしい美術プロジェクト	Art for the Hospital Project, Yasashii Bijutsu	日本	Japan	
44	依田洋一郎	Yoichiro Yoda	日本	Japan	
45	ゼン・テー	Zen Teh	シンガポール	Singapore	
46	アジア企画展 (仮称)	Asia Project (tentative)	-	-	PJ
47	東京藝術大学×香川大学 瀬戸内分校・ぐんだらプロジェクト (仮称) 作家: 栗原寿行、新居俊浩、沼田侑香	Tokyo University of the Arts × Kagawa University Setouchi Branch, Gundara Project (tentative) [Artists: Toshiyuki Kuwabara, Toshihiro Nii, Yuka Numata]	-	-	PJ
48	大島サマースクール (仮称)	Oshima Summer School (tentative)	-	-	PJ
49	瀬居島プロジェクト (仮称) ディレクター: 中崎透 作家: 安岐理加、伊藤誠、上村卓大、 狩野哲郎、五嶋英門、下道基行、 早川祐太、袴田京太郎、福田恵、 槇原泰介、山本品、保井智貴	Seijima Project (tentative) [Director: Tohru Nakazaki] [Artists: Rika Aki, Makoto Ito, Takahiro Kamimura, Tetsuro Kano, Hidekado Goto, Shitamichi Motoyuki, Yuta Hayakawa, Hakamata Kyotaro, Megumi Fukuda, Taisuke Makihara, Aki Yamamoto, Yasui Tomotaka]	-	-	PJ
50	高松港プロジェクト (仮称)	Takamatsu Port Project (tentative)	-	-	PJ
51	UNHCR連携企画展 (仮称) 作家: ホンマタカシ	UNHCR collateral exhibition (tentative) [Artist: Takashi Homma]	-	-	PJ
52	ベトナムプロジェクト (仮称)	Vietnam Project (tentative)	-	-	PJ
53	映画「海辺へ行く道」(監督・脚本: 横浜聡子)	-	-	-	PJ
54	クリスティアン・バスティアンス	Christiaan Bastiaans	オランダ	Netherlands	展示 + E
55	雲門舞集	Cloud Gate	台湾	Taiwan	E
56	島のお誕生会	Island Birthday Party	-	-	E
57	きゅうかくうしお	Kyukakuushio	日本	Japan	E
58	中堀海都+平田オリザ	Kaito Nakahori + Oriza Hirata	日本	Japan	E
59	女木島名画座上映会	Screening of Megijima	-	-	E
60	市民煎茶グループ曙	Tea Ceremony Group Akebono	日本	Japan	E
61	切腹ピストルズ	Seppuku Pistols	日本	Japan	E
62	瀬戸内少女歌劇団	Setouchi Girls Theater	日本	Japan	E
63	SILT	SILT	日本	Japan	E

新規作品・新展開作家・プロジェクト

63組 (21の国と地域)、46作品、8プロジェクト、10イベント (2024年10月24日現在)

※「展示 + E」は”作品”と”イベント”両方にカウントしています。

全17エリアの会場

春

夏

秋

直島（なおしま） 面積 | 7.81km² 周囲 | 27.8km 人口 | 約2,900人

27の島々からなる直島諸島は、古くから漁業、海運業、製塩業などが盛んで、交通の要衝だった。「保元物語」では、平安時代の保元の乱で敗れた崇徳上皇が讃岐に流される際、直島に立ち寄ったと記され、島には上皇ゆかりの地名が多く残っている。「直島女文楽」をはじめ貴重な文化財が残り、1910年代からは製錬所のある町として発展してきた。近年はベネッセアートサイト直島が展開する質の高いアート作品や建築が集まる“現代アートの聖地”として国内外から注目を集めている。



Topic

直島新美術館 設計 安藤忠雄

丘の稜線をゆるやかにつなぐ大きな屋根が特徴的な地下2階、地上1階建て、ベネッセアートサイト直島で安藤忠雄が設計する10番目の美術館。開館を記念する2025年の展示ではアジア地域出身の著名アーティストから新進気鋭まで11名（組）による、この場所にあわせて構想された新作や代表作を、4つのギャラリー空間やカフェエリア、屋外の敷地などに大規模に展開。これまで以上に多様な視点や表現、多義的なメッセージを発信する。

「直島新美術館」外観イメージ ©Tadao Ando



春

夏

秋

豊島（てしま） 面積 | 14.5km² 周囲 | 18km 人口 | 約700人

直島と小豆島の間位置し、海がまだ淡水だった9,000年前の貝塚があり、縄文時代から人が住んでいたことが分かっている。島の中央、標高340mの檀山にはスダジイの原生林が茂り、麓では豊富な湧き水を利用して棚田での稲作が行われたが、1960年代から過疎高齢化による棚田の荒廃が進んだ。1970年代には日本最大の不法投棄事件が起こり、環境汚染や風評被害を受けた。美術館建設計画などを契機に棚田再生が始まり、毎月「島のお誕生会」が行われるなど、島の本来の豊かさに焦点を当て、アートと食を中心とした取り組みが継続されている。



春
夏
秋

女木島（めぎじま） 面積 | 2.62km² 周囲 | 7.9km 人口 | 約100人
高松港からフェリーで20分の場所に位置する。冬には「オトシ」と呼ばれる海水を巻き上げた強風が集落に吹き付けるため、島の東側には「オオテ」と呼ばれる巨大な防風用の石垣が並ぶ。今から約100年前、大洞窟の発見に伴い、女木島が「桃太郎」伝説の鬼ヶ島との説が発表されたことで、観光地として人気を集めた。現在も鬼ヶ島大洞窟として見学することができる。夏は海水浴場として人気で、8月には太鼓台を担いで海に入る勇壮な祭りがある。



春
夏
秋

男木島（おぎじま） 面積 | 1.34km² 周囲 | 5.9km 人口 | 約160人
女木島からさらに20分、岬を回ると島の西側の急斜面に張り付くように並ぶ家々の風景が広がる。迷路のように入り組んだ坂道は家々を縫うように走り、中腹の豊玉姫神社に通じる。西側の集落からは瀬戸大橋と大槌、小槌といった瀬戸内に特徴的なおにぎり型の島々の間に沈む夕日を見ることができる。島の北端に立つ総御影石造りの男木島灯台の周辺には、約1,000万本のニホンスイセンが花を咲かせる。芸術祭を契機に移住者が増え、休校していた小・中学校が2014年に再開。新たな地域のコミュニティが生まれている。



春
夏
秋

小豆島（しょうどしま）

面積 | 153.22km² 周囲 | 145.2km 人口 | 約26,000人
瀬戸内海で淡路島に次いで2番目に大きな島。8000万年～9000万年前の花崗岩の上に火山岩があり、花崗岩は採石され大阪城の石垣として搬出されるなど、古くから島の産業となっている。また、火山岩は浸食により寒霞渓などの景勝地を生んだ。中山の千枚田や断崖にある島八十八ヶ所霊場など島特有の景観が特徴的で、農村歌舞伎や虫送りをはじめとする地域の伝統行事が残る。手延べそうめんや醤油などの加工産業が盛んで、日本で初めてオリーブの栽培に成功したことから「オリーブの島」としても知られている。



春
夏
秋

大島（おおしま） 面積 | 0.62km² 周囲 | 4.2km 人口 | 約50人

高松港の北東約8kmに浮かぶ、2つの砂州がつながった島。源平合戦に敗れた平家が落ち延び、今も残る墓標の松は800年前に墓に植えられたものと伝わる。1907年、ハンセン病患者を療養所に入所させる法律ができ、1909年には大島に国立ハンセン病療養所・大島青松園が開設された。1950年代には約700人が厳しい共同生活をこの島で送った。らい菌によって皮膚や目、末梢神経などが侵されるハンセン病は、戦後に治療法が確立されたが、1996年に「らい予防法」が廃止されるまで、約90年にわたって入所者が強制隔離された。2019年に社会交流会館が完成し、芸術祭を契機に高松一大島間が一般旅客定期航路化した。



春
夏
秋

犬島（いぬじま） 面積 | 0.54km² 周囲 | 3.6km 人口 | 約30人

岡山市の宝伝港から南に約2.5km、定期船で約10分の場所に位置し、「犬島みかげ」と呼ばれる花崗岩の採掘が盛んで、大阪城や江戸城の石垣などにも使われている。1909年に銅製錬所が開設され、稼働した10年間に島は一気に発展した。一時は3,000人が暮らしたが、製錬所の閉鎖に伴い、人口は減少した。高い煙突が印象的な製錬所の遺構は、2008年から「犬島アートプロジェクト」が始まり、美術館として再生。集落内には犬島「家プロジェクト」も展開され、国内外から多くの人を訪れている。



春
夏
秋

高松港エリア（たかまつこう）

高松港のある高松市は、香川県のほぼ中心に位置する人口約42万人の都市。安土桃山時代、生駒親正によって築かれた海城は「高松城」と呼ばれ、その城下町として発展。1910年に四国と本州を結ぶ宇高航路が開設されると「四国の玄関口」として栄えた。6つの芸術祭の会場の島々と直接結ばれており、船舶乗降人員数は全国4位。港周辺では1万人収容可能な香川県立アリーナや大学キャンパス、外資系ホテルの建設など大規模な開発が進んでいる。



春
夏
秋

宇野港エリア（うのこう）

岡山県の南端に位置する玉野市の港で、天与の良港として知られる。1988年の瀬戸大橋開通まで宇高連絡船の本州側の発着地として、物流の重要な拠点として発展。古くは土器による製塩が行われ、現在もなお製塩工場があり、塩作りを続けている。新幹線が停車する岡山駅から宇野駅まで約1時間で移動でき、フェリーの定期航路のほか、年間を通じて多くのクルーズ船が寄港する。近年、歴史を重ねた建物を活用した飲食店や宿泊施設が増えている。



春

瀬戸大橋エリア（せとおおはし）

瀬戸大橋の袂のこのエリアは、備讃瀬戸の海が最も狭まる海域であり、沙弥島、瀬居島、与島、岩黒島、櫃石島が点在する。1988年には、世界最長の鉄道道路併用橋の瀬戸大橋が架かり、香川県と岡山県が結ばれた。もともと離島であった沙弥島と瀬居島は、1960年代後半に番の洲臨海工業団地開発により、埋め立てられ陸続きとなった。瀬居島は、大師市や秋祭り（船渡御）などの地域の伝統行事が昔のまま継承されている。



夏

志度・津田エリア（しど・つだ）

エリアのあるさぬき市は、香川県東部に位置し人口は4.7万人。志度エリアは、四国遍路第86番札所・志度寺の門前町で、この寺は推古33年（625）開創、藤原不比等の次男が母の追善のため伽藍を修造したとも伝わる。志度湾に面していることから、海陸交通の要地で、牡蠣や桐下駄などの特産品が生まれた。江戸時代の奇才・平賀源内の生誕地としても知られる。

津田エリアには、白砂青松（はくさせいしょう）の景勝地「津田の松原」があり、樹齢600年を超える老松をはじめ、根上がりりの松などが約1kmにわたって続く。棟方志功や平山郁夫もこの地を訪れ、その美しさを称えた。毎年7月頃には、特産品のしらすを天日干しする風景が見られる。



夏

引田エリア（ひけた）

エリアのある東かがわ市は、香川県の東端に位置し、北は瀬戸内海の播磨灘を臨み、南と東は阿讃山脈を境に徳島県と接する、人口約2.8万人の都市。引田は風待ちの良港として、近畿・四国を繋ぐ海上の要衝として知られた。天正年間には引田城とその城下町が整備され、そのまち並みの名残を現在も見ることができる。江戸時代に盛んになった醤油醸造や、讃岐三白（さぬきさんぱく）をはじめとした荷を運ぶ交通の拠点として栄えた。明治に始まった手袋産業は、国内シェア90%で日本一の生産量を誇っており、日本で初めてハマチの養殖に成功したことでも知られている。



秋

本島（ほんじま） 面積 | 6.75km² 周囲 | 16.4km 人口 | 約250人
28の島々からなる塩飽諸島の中心の島。塩飽（しわく）は塩作りにちなむ「藻塩焼く」や激しい潮流を表す「潮湧く」がいわれとされる。周辺の複雑な潮流は高い操舵技術を生み出し、水夫たちは塩飽衆や塩飽水軍と呼ばれて活躍。豊臣秀吉が船乗りたちに自治を認め、人名（にんみょう）という独自の制度が始まった。水夫らは幕末には咸臨丸の乗組員に選ばれ太平洋を横断。造船技術を活かし、のちに宮大工や家大工へ転身し、寺社仏閣などの建築を手掛け、塩飽大工と呼ばれた。人名の屋敷が残る笠島集落は香川県で唯一、国指定の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、当時の景観を保っている。



秋

高見島（たかみしま） 面積 | 2.36km² 周囲 | 6.7km 人口 | 約20人
多度津町の北西の沖合約7.5kmに浮かぶ、南北に細長い円錐形の島で、平地が少なく険しい斜面に家々が階段状に建ち並んでいる。浦地区では江戸時代の大火のあと、石垣を築き計画的に作られた路地と階段が交差する独特の景観が残っている。昭和初期まで殺虫剤の原料に使われた除虫菊（じょちゅうぎく）の栽培が盛んで、5月には島は一面の白い花で覆われた。現在は除虫菊の栽培は衰退し、一時期は1,000人を超えた人口は激減している。



秋

粟島（あわしま） 面積 | 3.72km² 周囲 | 16km 人口 | 約150人
瀬戸内海のほぼ中央、香川県西部に位置する荘内半島の沖合に浮かび、3つの砂州がつながったと言われ、上空から見ると船のスクリューのような形をしている。江戸時代には北前船の寄港地として栄え、1897年（明治30年）には、日本初の海員養成学校が設立され、90年に渡り多くの船乗りを輩出してきた。ライトグリーン色の旧校舎は現在記念館となっている。初夏から秋にかけて、夜になると幻想的な青い光を放つ海ほたるを見ることができる。



秋

伊吹島（いぶきじま） 面積 | 1.01km² 周囲 | 5.4km 人口 | 約320人
瀬戸内海の真ん中に位置する燧灘（ひうちなだ）の東に位置し、海流の関係から島周辺には魚が豊富で古くは鯛しほり網漁、近代からはさぬきうどんの出汁にかかせないイリコ漁などが盛んである。出産前後の女性が共同生活を送る「出部屋」が400年続くなど、漁労文化が島に根付いている。海岸沿いにはイリコの加工場が軒を連ね、6月にイリコ漁が解禁になると島外からの人が増え、島は活気づく。また、島で話される言葉は平安時代の京言葉のアクセントが残る特殊な方言である。



秋

宇多津エリア（うたづ）

エリアのある宇多津町は、香川県のほぼ中央にあり、面積8.10km²と県内で最も小さな町だが、人口は1.8万人と人口密度は県内一。古代、神が宿る岬を信仰する「御前（おみさき）信仰」があり、その祭司跡に現在の宇夫階（うぶしな）神社が建てられたと伝わる。「鵜足津（うたづ）」と呼ばれていた小さな港は、平安時代に讃岐有数の船着場として発展。その後、海上交通の要所となり、室町時代には、時の将軍足利義満の側近、細川頼之のもとで四国の玄関として栄えた。江戸時代、製塩業で日本有数の「塩のまち」となり海岸線は塩田で埋め尽くされたが、1947年、製塩業は国の方針により廃止。1988年、入浜式塩田が復元され伝統の塩作りを見ることができる。かつて塩田があったエリアは埋め立てが進み新市街となり、旧市街は古街（こまち）と呼ばれてかつての栄華をしのばせるまち並みが残っている。



チケット情報

瀬戸内国際芸術祭2025の作品は、芸術祭の会期中すべての作品を1回ずつ鑑賞できる作品鑑賞パスポート（※）、または作品ごとの個別鑑賞券により鑑賞できます。

※地中美術館・豊島美術館・その他一部の作品、イベント等は別途料金が必要。

作品鑑賞パスポート

オールシーズンパスポート					
種類	特別早割	前売り	当日	16～18歳 (要身分証)	15歳以下
価格	¥3,800	¥4,300	¥5,500	¥2,500	無料
販売期間	2024 2025 10/24～1/17	2025 1/18～4/17	2025 4/18～	2025 4/18～	※スタンプラリーが楽しめる「こどもパスポート」を配布
購入先					
芸術祭公式アプリ		引換不要です。アプリにチケットが表示されます。			購入先の詳細は公式ウェブサイトをご確認ください。 
芸術祭各案内所、旅行代理店、コンビニエンスストア ほか 各種プレイガイド		会期中、各港等に設置される芸術祭の案内所等で引換が必要です。 引換時には、デジタルパスポートか紙パスポートをお選びいただけます。			

●芸術祭開幕後は、春・夏・秋いずれかの会期でのみ鑑賞可能な1シーズンパスポートを4,500円で販売します。

お得な作品鑑賞パスポート利用特典

- ・芸術祭公式ショップでの割引
- ・香川・岡山県内の文化・観光施設での割引
(割引施設は、公式サイトに順次掲載予定)
※高松港無料駐車場の利用特典はありません。
- ・芸術祭の有料イベントの割引
- ・同一作品の2回目以降の鑑賞料金割引

個別鑑賞券

料金 500円～／1作品

購入方法 作品受付にて購入（一部を除き現金のみ）



会期中の交通・アクセス・混雑対策

交通対策

瀬戸内国際芸術祭の会場の多くは離島です。船を乗り継ぎ、島を巡りながら、アート作品とともに、瀬戸内の多島美や島の文化、暮らしに触れることが瀬戸内国際芸術祭の醍醐味です。会期中は、来場者に快適にその魅力を味わっていただけるよう、公共交通事業者等の協力のもと、海上及び陸上交通の利便性向上を図ります。

既存航路の増便や、通常は直接渡ることができない島同士を結ぶ航路（臨時航路）の運航、島内バス等の陸上交通を増強します。

※具体的なダイヤ等については、順次公式ウェブサイトで公開します。

混雑対策

混雑が予想される土日・祝日や繁忙日を中心に、既存航路の増便や臨時便の運航、島内バス等の増強を行った上で、島内での混雑を緩和するため、特定の日程、特定の会場に来場者が集中しないよう、これまで以上に、平準化・分散化を図ります。

そのため、会期毎に各会場の1日当たりの混雑状況を予想した「混雑予想カレンダー」を作成し、早期に公開します。また、会期中は、アプリでリアルタイムの混雑状況をお知らせします。

また、主要な港や会場の巡り方のコツを動画で配信するほか、さまざまなモデルコースを作成するなど、周遊に役立つ情報を発信します。

瀬戸内国際芸術祭を巡る旅行商品を企画される旅行会社におかれても、ツアー実施日の平準化や行き先の分散化、船やバスのチャーターなどにご協力ください。

ツアー

芸術祭公式ツアー

パフォーミングアーツやワークショップなど、芸術祭公式イベントに参加するツアーや、歴史、食、建築など特定のテーマに沿って催行するツアー

予約制で会期中の特定日に催行。ツアー専用のチャーター船を利用し、各会場を新規作品を中心に鑑賞しながら、ガイド付きで巡ります。



カスタマイズツアー

来場者の要望に応じた旅の企画や提案、施設等の手配を行うツアー

目的地に応じたアテンド・ガイド、チャーター船等の移動手段、レストランを含む食事施設、芸術祭公式イベントのチケット手配等、オリジナルのツアーを提供します。また、学校の課外学習や企業の研修に特化した「スタディツアー」も可能です。



公式デザイン

メインビジュアル



S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 2 5

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 2 5

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 2 5

撮影：上田 義彦

2025のビジュアルは多数の中・高生の集団によって、
日常の中の非日常の風景を作り上げました。

飛び込み台に、赤い水泳帽、黒い水着をつけた
中・高生たちがびっしりと蟻集しています。

彼らは一斉に海に向かって飛び込みます。

やがて飛び込み台の周辺に、
赤い水泳帽をかぶった頭が多数浮かび上がる情景へと続きます。

瀬戸内海の、見慣れた風景の中に巻き起こる特異な時間、
すなわち「瀬戸内国際芸術祭」を、詩のような写真表現で演出しました。

海のイベントの再来を告げると同時に、
またその海に帰ってきたいという気持ちを、
人々に湧き上がらせるヴィジュアルを意図しています。

グラフィックデザイナー 原 研哉

原 研哉（デザイナー）

1958 年生まれ。

無印良品、蔦屋書店、GINZA SIX 等のアートディレクションで知られる。

日本を未来資源としてとらえ直す視点から、様々なプロジェクトの立案を行なってきた。

2019 年にはウェブサイト「低空飛行」を開始、「高解像度の旅」をテーマに観光分野への新たなアプローチを試みている。日本デザインセンター代表。武蔵野美術大学教授。

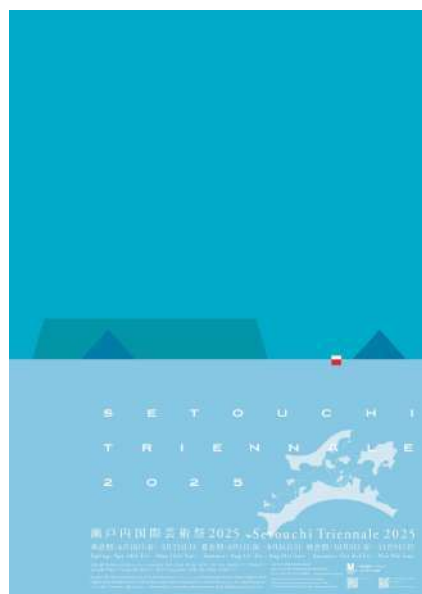
上田 義彦（写真家）

多摩美術大学グラフィックデザイン学科教授。

日本写真協会作家賞、東京ADC 賞、ニューヨークADC 賞など、国内外の様々な賞を受賞。

2011 年にGallery 916 を主宰。代表作に、ネイティブアメリカンの聖なる森を捉えた『QUINAULT』、前衛舞踏家・天児牛大のポートレート集『AMAGATSU』、自身の家族にカメラを向けた『at Home』、生命の源をテーマにした『Materia』シリーズ、30 有余年の活動を集大成した『A Life with Camera』など。

先行ビジュアル



公式グッズ

デザインは、メインビジュアルなどを担当する原 研哉によるものです。瀬戸内国際芸術祭をとことん楽しめるグッズを展開します。芸術祭を巡る興奮と感動の思い出を、グッズとともに持ち帰りください。

●ラインナップ

Tシャツ、てぬぐい、缶バッジ、ポストカード等定番商品や新たに特別なアイテムを制作予定

●販売場所

高松港、直島オフィシャルショップ、各案内所、オンラインショップ ほか

インフォメーションツール

公式アプリ

来場者に芸術祭をよりスムーズに楽しんでもいただくため、作品施設までの経路検索機能に加え、デジタルパスポート購入機能を搭載した多言語対応無料アプリを配信します。

・配信開始日 | デジタルパスポート（前売り）機能：2024年10月24日（予定）

全ての機能：2025年4月（予定）

・対応 OS | iOS、Android

公式ウェブサイト

芸術祭に関する情報を公式ウェブサイトに集約し、5言語（日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）で総合的に発信します。

今回、企画発表会（10/24）にあわせて全面リニューアル。来年の開幕に向けて掲載内容を充実していきます。



公式ガイドブック

作品情報、見どころやアクセス情報を盛り込んだ「これ一冊で芸術祭を巡れる」ガイドブックを発売します。芸術祭のあゆみや瀬戸内の魅力など芸術祭をより深く味わえる情報も満載です。

・発売予定 | 2025年3月

・購入方法 | 全国書店、AmazonほかECサイト、芸術祭各案内所（予定）

・対応言語 | 日本語



公式SNS

SNSではタイムリーな情報や動画を使った案内などを発信していきます。

※（）内はフォロワー数

○Instagram(6.9万人)



○Facebook(6.2万人)



○X(3.8万人)



案内所

芸術祭のマザーポートである高松港をはじめ、宇野港、会場の島々や本土側の港等に案内所を設置し、作品やイベントの案内、交通機関や作品施設での混雑情報など芸術祭に関する情報提供を行います。

プレスツアー

プレス関係者を対象に開幕前にプレスツアーを予定しています。ツアーではチャーター船などを用いて効率的に会場を回り、主に新作を中心にご紹介します。効率的にご取材いただけるよう、いくつかのコースをご用意する予定です。



プレスツアーでの作家取材の様子

芸術祭サポーター

アーティストと地域をつなぎ、作品と来場者を結ぶ役割を担う重要な存在となるのが、地元をはじめ国内外から集まるサポーターです。作品制作や会期中の作品・イベントの運営、各種ガイドのほか、島の地域行事への参加など、広く芸術祭を支えています。

ボランティアサポーター こえび隊

これまで、日本全国、世界各地から延べ45,000人が参加した「こえび隊」が引き続き活躍します。こえび隊の活動は芸術祭や地域を支えるだけでなく、芸術祭が目指す地域再生の取組みを広く内外に伝えていきます。特に、アジアからの多くの参加者を通じて、瀬戸内とアジアをつなぎます。

また、こえび隊は第一回の開催前年の2009年に発足して以来、芸術祭と地域を、瀬戸内と世界をつなぎ、3年に1度の芸術祭開催の100日以外の1000日も精力的に活動してきました。

瀬戸内国際芸術祭が誇るこえび隊のあゆみを記した書籍が発売予定です。(2025年春予定)



企業・団体サポーター

地域住民や地元企業・団体、学校など、地域を最も知る人たちがボランティアとして加わって、「人」（地域住民、来場者、アーティストなど）と地域をつなぐコミュニケーションのプラットフォームとなり、芸術祭を支えます。

連携・交流・人材育成

芸術祭の盛り上がりは、今や会場の島々だけにとどまりません。県内外のさまざまな主体が芸術祭に呼応して行う取組みが広がりつつあります。現代アートの力を借りる芸術祭の取組みは、会場となる島々に新たな連携を模索させ、地域の活性化を促していきます。また、未来の瀬戸内を担う若者を育成するため、学校との連携事業等を実施しています。

広域連携事業

瀬戸内国際芸術祭2025と同じ年、全国でさまざまな地域型芸術祭などが開催されます。瀬戸内国際芸術祭はこれらと広報等で連携し、日本全国でアートが地域の活力を取り戻すことに貢献します。

<現段階で連携を予定している事業>

- ・瀬戸芸美術館連携プロジェクト（香川・岡山・兵庫）

瀬戸内国際芸術祭2025にあわせて、香川県立ミュージアム、高松市美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、直島新美術館、岡山県立美術館、大原美術館、兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館の8つの美術館が連携して、日本人の現代アーティストを中心とした展覧会を実施します。

- ・UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）（山口県宇部市）

県内連携事業

芸術祭にとどまらず、香川県内の魅力ある文化芸術に関するイベント等を公募により選定し、県内の周遊を促すデジタルスタンプラリー「くるりアートかがわ(仮称)」を実施し、芸術祭を契機に県内の文化芸術の振興を図ります。

学校連携事業

中高生が、瀬戸内国際芸術祭に参加予定のアーティストと、アートに関する授業やワークショップを通じて交流し、地域の魅力を学ぶとともに自ら考える経験をするることにより、豊かな心や創造力を育み、人間性を磨き高める一助となることを目指します。



2024年9月26日(木)にヤコブ・ダルグレンさん（スウェーデン）が高松工芸高校で行ったアーティスト交流の様子

協賛・寄付

パートナー企業（五十音順）

株式会社イーティックスデータファーム | 株式会社イトーキ | 鹿島建設株式会社 |
カトーレック株式会社 | グッチジャパン | 日本郵便株式会社 | 野村證券株式会社 |
株式会社ハースト婦人画報社 | 株式会社パワーエックス | 株式会社ベネッセホールディングス |
ホッピービバレッジ株式会社 | 株式会社三井住友銀行 | 三井不動産株式会社 |
三菱地所株式会社 | 株式会社レクザム

協賛

株式会社チャリ・ロト | 四国旅客鉄道株式会社 | 西日本旅客鉄道株式会社 | 高松空港株式会社 |
大倉工業株式会社 | オリビアン小豆島夕陽ヶ丘ホテル | 四国化成ホールディングス株式会社 |
上海三宁投资有限公司 | 上海盛創建築裝飾工程有限公司 | 日本たばこ産業株式会社 | ミズノ株式会社 |
高松琴平電気鉄道株式会社 | 大日本印刷株式会社 | 大和証券株式会社 | 株式会社ファミリーマート |
株式会社イースト | 香川県建設業協会 高松支部 | 株式会社七宝 | 株式会社ソニックフロー |
大成建設株式会社 | 株式会社タダノ | 株式会社百十四銀行 | 株式会社フソウ |
株式会社Life-Do. Plus | 株式会社ビザビ | ショーワグローブ株式会社 | ANZEN・PAX株式会社 |
アオイ電子株式会社 | 有限会社アキヤマ自販 | アセッターズ株式会社 | 株式会社NTTドコモ 四国支社 |
岡山ガス株式会社 | オリエンタルモーター株式会社 | 株式会社香川銀行 | 香川県信用金庫協会 |
かどや製油株式会社 | 木下製粉株式会社 | ケーズデンキ | 株式会社合田工務店 | 株式会社サムソン |
株式会社三光エンジニアリング | JAグループ香川 | 株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ |
帝國製薬株式会社 | 中尾食品グループ | ナカシマホールディングス株式会社 | 公益財団法人南海育英会 |
株式会社日本総険 | 一般財団法人阪大微生物病研究会 | 本州四国連絡高速道路株式会社 |
公益財団法人松平公益会 | 森ビル株式会社 | 日本航空株式会社 | 四国団扇株式会社 | 三井物産株式会社 |
ANA | 株式会社梓設計 | 株式会社アムロン | A L S O K | 今治造船株式会社 | NTT西日本 |
大紀商事株式会社 | 株式会社オールブルー | 一般社団法人香川県建設業協会 | 香川県信用組合 |
香川県ホテル旅館生活衛生同業組合 | 鎌田醤油株式会社 | 株式会社きんでん四国支社 | 株式会社グロップ |
研精堂印刷株式会社 | 株式会社建設マネジメント四国 | 神島化学工業株式会社 | 琴平バス株式会社 |
株式会社四国自動車部品商会 | 四国水族館 | 四国通商株式会社 | 四国電力株式会社 |
四国電力送配電株式会社 | 株式会社ジップ | 清水建設株式会社 四国支社 |
瀬戸内温泉たまの湯/UNOHOTEL | 高松帝酸株式会社 | 株式会社タクテック |
東洋アルミニウム株式会社 | 株式会社トーカイ | 株式会社トヨタレンタリース岡山 |
株式会社トロンマネージメント | 中庭住宅株式会社 | 株式会社西崎組 | 日宝総合製本株式会社 |
有限会社双葉船舶食料品 | 株式会社マキタ | 三菱電機株式会社 | 三菱マテリアル株式会社 |
レンフロ・ジャパン株式会社 | アイブリックス株式会社 | 株式会社小竹組 | 株式会社菅組 |
住友商事株式会社 | トヨタカラー香川株式会社 | ネットヨタ高松株式会社 | フジガード株式会社 |
勇心酒造株式会社 | 石川千晶公認会計士事務所 | 株式会社おもちゃ王国 |
一般社団法人香川県トラック協会 | 香川トヨタ自動車株式会社 | 株式会社Cooマネジメント |
コーホク印刷株式会社 | コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 | 後藤設備工業株式会社 |
株式会社サニーエイト | 第一生命保険株式会社 東四国支社 | 西日本ビル管理株式会社 |
ネットヨタ香川株式会社 | ピーブルソフトウェア株式会社 | 三井ガーデンホテル岡山 |
三井住友海上火災保険株式会社 | 株式会社ムレココミュニケーションズ | 株式会社石川組 |
香川県建設業協会 小豆支部 | 香川県建設業協会 西讃支部 | 香川県建設業協会 中讃支部 |
香川県建設業協会 長尾支部 | 香川県舗装協会 | 株式会社高岸工務店 | 高松商運株式会社 |
株式会社日栄建設 | 株式会社ハローズ | 株式会社ヒカリ | 株式会社フューチャーデザインラボ |
e B A S E 株式会社 | 葵機工株式会社 | あなぶきグループ | サカケン株式会社 |
シンボルタワー開発株式会社 | 大学予備校 岡山進研学院 | 宝田電産株式会社 | 株式会社多丸組 |

協賛（続き）

富士建設株式会社 | 三豊運送株式会社 | 名物かまど | ばいこう堂株式会社 | 株式会社ADF・アヤベ |
ANAクラウンプラザホテル岡山 | 株式会社岡山京橋クルーズ | 岡山トヨタ | Ongakushitsu Inc. |
北浜alley株式会社 | 株式会社廣榮堂 | 堺屋醤油株式会社 | 株式会社サピエント |
株式会社CO2資源化研究所 | 四国牛乳輸送株式会社 | 四国塗装工業株式会社 | セキ株式会社 |
ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル | 東洋オリーブ株式会社 | 東洋工業株式会社 |
株式会社直島アートユニット | 株式会社長峰製作所 | ビジネスホテルプリンス |
株式会社フジワラテクノアート | 丸善工業株式会社 | 株式会社宮地サルベージ |
株式会社明電舎 四国支店 | 矢崎総業四国販売株式会社 | 株式会社ユーミック | 和田精密歯研株式会社

寄付（五十音順）

イオンリテール株式会社 | Ongakushitsu Inc. | 香川県漁業協同組合連合会 | 株式会社JR四国ホテルズ |
株式会社フジ | 株式会社伏見製薬所 | ユウ・ティ・イー株式会社 | 四電ビジネス株式会社 | 税理士法人六条 |

（令和6年10月現在）

SETOUCHI
TRIENNALE
2025



● 広報に関するお問い合わせ

取材申込・画像貸出について

それぞれ右記からお申込みください。



取材申込



画像貸出

瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局

〒790-0019 香川県高松市サンポート1番1号

高松港旅客ターミナルビル3階

Tel: 087-813-0853 Fax: 087-813-0858

E-mail: press@setouchi-artfest.jp

● チケットに関するお問い合わせ

瀬戸内国際芸術祭チケットセンター

Tel: 087-811-7921 Fax: 087-811-7922

E-mail: setogeit2025@bsec.jp